

# 霧島市議会 産業建設常任委員会

## 行政視察報告書



加古川市議会議事堂前



秋吉台科学博物館 (美祢市)



NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト事務所

平成28年7月25日(月)～27日(水)

於：兵庫県加古川市・広島県尾道市・山口県美祢市

平成28年7月25日から27日の3日間、兵庫県加古川市、広島県尾道市、山口県美祇市を訪問し、行政視察を行った。それぞれの視察内容については、次のとおりであった。

— 7月25日 兵庫県加古川市 —

### 水道事業の民間委託の取組について

#### 【加古川市の概要】

加古川市は、一級河川加古川の水の恵みを受けて発展してきた都市である。

(加古川市ホームページより)

総面積：138.48km<sup>2</sup>

総人口：266,575人（男性130,625人 女性135,950人）

世帯数：103,963世帯（総人口・世帯数：2016年6月1日現在）

市の花：つつじ 市の木：くろまつ

#### 【加古川市の水道事業】

加古川市の水道事業は、昭和28年4月の給水開始以来55年余りが経過。昭和30年代から40年代の高度成長期に急速な面的・量的な拡大期において整備した水道施設の多くが老朽化しつつあり、その更新が大きな課題となっている。今後の10年は、水道施設の大規模更新・再構築を初めて経験する時代となる。右肩上がりの人口増加の時代は終焉を迎え、人口減少に突入する。家庭における節水型家電製品等の普及、事業所における節水型設備の導入、地下水利用による水需要の減少、少子高齢化、グローバル化、水道事業における熟練した技術職員の減少など、加古川市の水道事業を取り巻く環境は大きく変化している。更に今後も水需要の減少に伴い料金収入の減少が続くと予想され、老朽施設の大量更新も控えている。財政運営は一段と厳しさを増す。



施設見学（中西条浄水場）

#### 【加古川市の水道事業の取組】

加古川市の経営健全化の取組は、平成14年10月に設置した「加古川市水道事業経営懇話会」からの提言を平成15年8月に受け、その後、水道局内で平成15年11月に策定した「加古川市水道事業の経営効率化等推進計画」に基づき経営基盤の強化を図ってきた。特に、水道局が直営で行ってきた業務のうち、民間委託が可能な業務を民間委託し、民間事業者の活力と機動性を活用し、経費の節減と事務事業の効率化を推進してきた。

## ◎経営健全化の主な施策

経営健全化に取り組むために、水道料金、分担金、手数料の引上げを実施しているが、利用者の理解を得るために、職員の給与、地域手当、特殊勤務手当などの引き下げを同時に実施している。水道事業の経営基盤の強化策として、人件費を含む経費の削減に引き続き取り組み、民間委託については、今後も民間委託が可能な業務については、積極的に民間委託を推進するとのことである。事務事業の見直しとして、集合住宅に設置している遠隔式量水器を、順次、一般式量水器に取り替え、経費の節減に努める。文書管理や人事管理事務を市長部局と一体化した内部管理支援システムを導入し、効率的な事務処理を行い、経費の節減を図ることとしている。人材育成は、次世代への技術及び専門知識の継承を、公営企業として着実に実施していく。現状の水需要に対応した料金体系の検討。使用量が多くなれば水道料金の従量制の単価が高くなる逓増型料金制度の一部見直しも、今後必要となると考えているとのことである。



視察風景（加古川市議会第3委員会室）

### (1)定員管理

- ・職員数98人（平成15年4月1日現在）
  - ⇒68人（平成16～20年度）
  - ⇒56人（平成23年度末現在 ※管理者を除く）

### (2)給与制度見直し

- ・給与水準の引下げ（平成18年度）
- ・地域手当の引下げ（平成20年度）
- ・特殊手当制度の見直し（平成15・16・18年度）
- ・住宅手当の引下げ（平成23年度）

### (3)お客様サービスの向上

- ・コンビニエンス収納の開始（平成15年度）
- ・水道お客さまセンターの開始（平成16年度）
  - ⇒同センターの土曜日午前開庁（平成17年度）
  - ⇒同センターの土日祝日開庁（平成22年度）
- ・電話による開閉栓受付の実施（平成17年度）
- ・現地清算の実施（平成17年度）

### (4)入札制度の改革

- ・一般競争入札の導入（平成15年度）

### (5)民間委託の推進

- ・水道お客さまセンター業務の一部委託（平成16年度）  
⇒同センター業務の全面委託（平成17年度）
- ・浄水場運転管理業務の一部委託（平成17年度）
- ・給配水管漏水修繕等委託業務の開始（平成24年度）

(6)水道料金の改定

- ・水道料金の改定を実施（平成16～18年度）

(7)分担金等の改定

- ・分担金及び手数料等の改定を実施（平成16年度）

【所管】

本市においても、水道事業の将来展望はかなり厳しい状況が想定される。水道事業の企業会計としての独立採算制の確立と、安心安全で安定的なおいしい水の提供を継続的に持続するには、経営健全化の取組を、更に積極的に推進しなければならない。今後、積極的な民間委託、下水道事業との連携・一体化、料金体系の検討など加古川市の取組を参考にしつつ、霧島市独自の取組も調査・検討し、企業会計としての経営方針を確立すべきと感じた。また、地方創生、地域経済の活性化との観点からも、民間委託の委託先は、霧島市内で完結できる取組が真に求められている。市内における管工事組合や水道事業の全ての業務に精通した人材の活用などを視野に、新たな起業・創業を支援育成することも、行政としての大きな役割であると感じた。そのことが、雇用創出につながり、地域経済の持続可能な活性化につながるものだと確信する。

— 7月26日 広島県尾道市 —

NPO法人尾道空き家再生プロジェクトの空き家への対策・取組について

【尾道市の概要】

自然の良港を持つ尾道は、海を望む階段や坂道、路地越しに見える尾道水道、点在する寺院など、歴史を凝縮した景観に魅かれ、この地で「暗夜行路」の草稿を書いた志賀直哉、尾道の女学校に通った「放浪記」作者の林芙美子、この地をこよなく愛し描き続けた小林和作をはじめ、多くの文人墨客が足跡を刻んだ。また、近年では数々の映像作品の舞台となり映画のまちとしても有名である。（尾道市ホームページより）

総面積：285.09km<sup>2</sup>

総人口：141,681人（男性68,207人 女性73,474人）

世帯数：64,975世帯（総人口・世帯数：2016年6月30日現在）

市の花：桜 市の木：桜 市技：囲碁



## 【NPO法人尾道空き家再生プロジェクト】

「空き家×建築」、「空き家×環境」、「空き家×コミュニティ」、「空き家×観光」、「空き家×アート」の5つの柱を基に活動。

### ①目的

尾道固有の町並みや建物はそこで営まれてきた暮らしの歴史であり文化である。その中でも山手地区には建築的価値が高いもの、不思議で個性的なもの、景観が優れているものなど、様々な魅力を持ったものが多い。しかし、時代の流れによって駅前や港湾は開発され、古い歴史の面影は失われつつある。また、車の入らない斜面地や路地裏には、時代に取り残されたように古い家並みが残っており、不便さゆえに空き家は増え続け、少子高齢化と中心市街地の空洞化の象徴となりつつある。そのような空き家の再生事業を通して、坂の町尾道の古い町並みの保全と地域の活性化を担う次世代のコミュニティの確立を目的としている。

### ②活動対象地域（尾道市旧市街）の概要

坂の町尾道の独特の景観は、映画やCMを始めとする様々なメディアで全国・全世界に紹介されている。もともとお寺しかなかった山手と呼ばれる尾道三山の陽当たりのよい高台に、当時の豪商たちが「茶園」と呼ばれる別荘住宅を建て始め、ハイカラな洋館付き住宅、旅館、社宅など、様々な時代の建物が斜面地にへばりつくように建ち並び、「建物の博物館」のようなエリアになっている。しかし、この坂の町には300を超える空き家が存在するという調査結果がでており、商店街の空き店舗なども合せると駅から2kmという徒歩圏内に、500軒近い空き家があるのではないかと推測されている。



視察風景（空き家を再生した事務所内）

### ③主な活動

#### 尾道市空き家バンク

NPO法人尾道空き家再生プロジェクトは、2009年10月、尾道市から「尾道空き家バンク」を事業受託開始。尾道市が、「地域活性化のための空き家情報提供の推奨事業」における特別区域に指定した地域を中心に実施している。尾道らしい坂の町や古い家に暮らしてみたいという方々と、空き家をどうにかしたいと願う大家さんとをマッチングするシステムである。不便けれども、高齢化と廃屋化の進む坂の町尾道が好きで、豊かな坂



立地面で建築基準法をクリアできず、建て替えや新築ができない。

暮らしをよく理解し、一緒に守っていこうという移住者を広く募集している。今まで培ってきた地域の方々との連携や行政だけでは行き届かなかった部分を補う活動であり、4年間で60軒の空き家に新たな居住者が見つかった。課題として、立地の面から、空き家の多くが建築基準法をクリアできないため、建て替えや新築が不可能であり、現存する空き家をいかに上手く活用し、後世に伝えていくかという点である。

### ◎空き家紹介の流れ

- (1)閲覧希望日を電話で予約
  - (2)事務所で閲覧申込書に記入後台帳やパソコンで登録物件閲覧
  - (3)物件毎に詳細に案内、各種相談
  - (4)空き家の所在地を地図上で確認
  - (5)物件の外部見学（立地建物確認）
  - (6)2回目以降は自宅からウェブ上で閲覧可能
- 気に入った物件が見つかった後は
- (7)登録申込書に記入、捺印
  - (8)気に入った物件の所有者に連絡
  - (9)現地で内部見学
  - (10)当人同士で交渉、契約



再生物件

※宅地建物取引業務の規制により（空き家バンクは）物件の説明はできない。

※契約の仲介が必要な人は、尾道市から不動産屋を紹介する。

### その他

空き家を再生し、

- ・第1号物件「通称尾道ガウディハウス」着工
- ・「三軒家アパートメント」始動
- ・尾道ゲストハウス「あなごのねどこ」として営業開始
- ・登録文化財「みはらし亭」着工

その他、多数の実績。



再生中の空き家内

### 【行政（尾道市）による空き家再生の支援制度】

#### ①まちなみ形成事業

景観地辺内の歴史的建造物やランドマーク的建物と認められる建物の場合、外観補修に対して改修費の3分の2を助成（最大200万円）。

#### ②空き家再生補助

景観地辺内の築30年以上の建物で1年以上空き家になっている物件に対して、2年以上住むという条件の下、3分の2の改修補助金（最大30万円）。

### ③沿道建造物等修景整備補助

景観地辺内で重要な路面に面している建物の外観に対し、3分の2の修景補助金（最大20万円）。

#### 【所管】

空き家再生、空き家バンクといった空き家への対策・取組の研修であったが、霧島市と尾道市の市街地の形成の違い等もあり、なかなか同じような対応ができるかは、少々疑問の残るところでもあるが、一民間団体の地域おこしという面から見ると、その努力には大いに敬服するものがある。行政が実施している尾道市の空き家対策も聞く必要があったと感じられた。

— 7月27日 山口県美祢市 —

#### 世界ジオパークへの取組について

#### 【美祢市の概要】

美祢市は、山口県の中央部に位置し、平成20年3月に旧美祢市、美東町、秋芳町の1市2町が合併し、現在の美祢市になった。石灰岩でできたカルスト地形が美祢の特徴であり、宇部興産などのコンクリート製造会社がこれを採掘して、セメントの原料としている。宇部興産道路と呼ばれる石灰岩輸送専用の私設自動車道があり、その採掘規模の大きさが伺われるところである。そのほかにも石炭や古くは銅などの鉱物資源にも恵まれ、産出された銅は、奈良東大寺大仏の材料としても使用された。石灰岩が風化したミネラル豊富な土壌を利用したゴボウ栽培が盛んで、「美東ごぼう」のブランドで出荷されている。また、秋吉台のカルスト地形や秋芳洞などの鍾乳洞は、貴重な観光資源として古くから活用されており、国内でも屈指の鍾乳洞として名を馳せている。



視察風景

総面積：472.71km<sup>2</sup>

総人口：25,824人（男性12,067人 女性13,757人）

世帯数：11,342世帯（総人口・世帯数：2016年6月1日現在）

市の花：桜 市の木：カシ

2015年9月4日（金） Mine秋吉台地域は日本ジオパークに認定。

#### 【Mine秋吉台ジオパークの概要】

Mine秋吉台ジオパークのテーマは、「カルスト台地に息づく地球と生命の歴史」であ



り、3億5000万年前から成長し始めたサンゴ礁が元となった秋吉台を始め、約4億年前の海洋プレートの子片、約1億年前にできた銅や銀など、たくさんの台地と人々の歴史が刻まれている。一番の目玉は、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」と日本最大級の鍾乳洞「秋芳洞」である。草原をトレッキングしたり、洞窟を探検しながら、地球のダイナミクスを体感できる。このほか、日本最古の国営銅山「長登銅山跡」や無煙炭を産出する「大嶺炭田」などがある。



視察風景

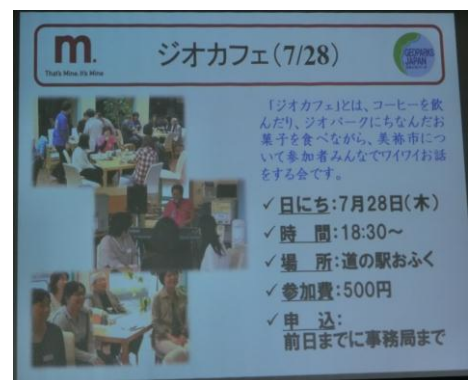
平成23年に市全域を申請地域とし、これらの地域資源を活用したジオパークとして活動を始めており、平成25年度に日本ジオパーク認定申請をしたが、①地域にジオパークの理念が浸透していない。②拠点施設の整備が不足している。③学術機関との連携が不十分である。との理由で認定見送りとなった。以降、それらの課題を克服して再度申請し、平成27年9月に日本ジオパークに認定された。現在、霧島ジオパークと同様に世界ジオパーク認定に向けた各種の取組を進めている。

## 【世界ジオパークへ向けた取組について】

### ①指摘事項により進展した活動

#### (1)普及啓発活動の推進

- ・ 出前講座の実施
  - ⇒ 2,000名超の参加者。議会の全員協議会でも実施。
- ・ 「Mineはジオ楽」(ジオを楽しむ活動)の実施。
  - ⇒ Mine秋吉台ジオパーク落語お披露目公演会開催
- ・ ジョカフェの開催
  - ⇒ 参加費500円の事前申込みで、コーヒーを飲んだりジオパークにちなんだお菓子を食べながら、美祿市について参加者みんなでお話をする会。
- ・ 地域の誇り、愛着の醸成
  - ⇒ ジオサイトは34か所設置。ジオサイトの適切な保全、学校での勉強会、ふるさと子どもガイドを実施。また、最新の研究成果を地域住民に提供。



#### (2)中核的人材の育成

- ・ ジオパークの勉強会
  - ⇒ ジオガイドの養成講座(これまで半年ごとに4回実施。40名のガイドが誕生)

#### (3)学術連携の推進



- ・山口大学との連携を強化

#### (4)拠点施設の整備の取組

- ・JR美祢駅にジオパークコーナーを設置。現在、観光案内を含めて対応。
- ・秋吉台科学博物館にジオパークコーナーの設置
- ・看板の設置
- ・ジオツアーの実施（受注型、募集型）

### ②2016年度の重点活動項目

#### (1)ジオパーク活動の普及

⇒出前講座（地域、学校、その他）、ジオカフェ（道の駅、公民館）

#### (2)ジオツアーの実施（受注型、募集型）と受入体制の整備

#### (3)ジオガイドの養成講座

#### (4)商品化プロジェクト

#### (5)看板などの整備

#### (6)JGN全国研修会の開催

### ③世界ジオパーク認定に対して特に求められていること

#### (1)国際的・科学的な価値について

⇒世界的に見て、Mine 秋吉台ジオパークの何がすごいのか。

#### (2)国際貢献・連携について

- ・発展途上国へのジオパーク普及活動支援

- ・ジオパーク数の大陸間格差是正

⇒日本国内にすでに8地域あり。

- ・国内外のジオパークとの連携

⇒カルスト地形を有するジオパークとの学術交流

（野柳地質公園（台湾）との連携・交流を開始している。）

⇒鍾乳洞の保全、管理方法の検討。

### ④世界ジオパーク認定に向けて感じていること

(1)ジオパーク活動は、非常に多岐にわたっている。

(2)行政だけで全ての活動を行うことは、不可能である。

(3)事務局（行政）任せでは活動の意味が薄れるし、そもそも認定されない。

(4)認定審査では、活動実績のみが評価されている。

(5)一人一人又は各団体の無理のない範囲で、活動に参加してもらうことが大切である。

## 【所管】

市民への浸透に向けて、また楽しくジオパークを説明するためのおもしろい取組として、落語家の立川志ら乃さんに創作・出演をお願いし、落語を活用している。また、台湾の野柳地質公園との連携を強化し、お互いに交流を深めているとのことである。

世界ジオパーク推進課の職員4名が分担して各事業等を進めているが、啓発エネルギー

を持ち続けることが大切である。日本ジオパークに認定後も4年ごとに再審査があるので、今後が大事であり、住民も本気になることが重要である。議会の関わりについては、特にないが、バッジやジオパークロゴ入りのポロシャツ（白と黒の2色作成）着用における啓発事業への参加程度であった。Mine秋吉台ジオパークは、美祢市全域をジオパークのエリアとした単独自治体で運営しており、広域で活動している霧島ジオパークとは、対照的であると感じた。



Mine秋吉台ジオパークバッジ

以上、この3日間において、たいへんお世話になりました各議会の皆様、現場担当職員の皆様及び各関係機関の皆様に感謝を申し上げ、報告といたします。

霧島市議会議長 池田 守 殿

産業建設常任委員会	委員長	池田	綱雄
	副委員長	厚地	覺
	委員	阿多	己清
	委員	木野田	誠
	委員	中馬	幹雄
	委員	有村	隆志
	委員	植山	利博
	委員	塩井川	幸生
	委員	蔵原	勇
	事務局	原田	美朗